



よしだともこの Linux 事始めの書

第1回

あなたの“Private Teachers”を紹介します……

前回は連載スタートのお知らせと雑談だけで終わってしまったこの連載、今回は雑談以外のことがどのくらい書けるでしょうか……。

よしだともこ <http://www.tomo.gr.jp/>

My “Happy 田舎 Life”

実は私、けっこう田舎に住んでいます。山を切り開いて作った新興住宅地なので、今、座っている二階の仕事部屋の右の窓の向うも、後ろの窓の向うも、四季おりおりに姿を変える山々だったりします。

そんなこともあり、ここ数年間、月に2、3回程度、近所の主婦のお友だちと、山歩きをしています。登っているのは、山頂に地元ではちょっと有名な厄よけの観音のある近所の山で、登りは約600段の階段を上がり、下りは階段ではなくて山道の方を降りています。たった1時間半の山歩きですが、これがすごく楽しいのです。

何が楽しいって、お友だちとおしゃべりです。彼女は、地域のこと、中学生の娘たちのこと、パートとして働いている会社でのことをしゃべってくれます。私の方も、自分の身近な話をします……。パソコンには興味がなくて「エクセルって何?」と言っている彼女ですが、Namazu^{*1}が何かは知っているし、Eric Raymondさん^{*2}が何者であるかも知っています。最近だと、何気なく写真を見せていても、「あ、この金髪の人が、(日本Linux協会の)会長の生越(おごし)さんね」なんて言います(笑)。

それはさておき、約600段の階段を上がるのは、ハードです。体育会系とはほど遠い世界で育った私は、悲し

いほどすぐに、へろへろな顔になってしまいます。山歩きの場合、上から階段を降りてくる人とは、知らない人とも「こんにちは〜」と挨拶をするんですが、人によっては、そんな私の情けない顔を見て、

「まだまだ、頂上は遠いよ。まだ10分の1ぐらいしか登ってないのよ。がんばってね。」と励ましてくださいます。すでに10分の9ぐらい登っている地点で会った人から、「あと、ほんの少しで頂上よ。あと一息ですよ。」と言われたことが何度もあります。こちらは、もう数年間も登っているわけで、あとどのくらいで頂上かはわかっているのですが、こういう励ましの声をもらうと、ブリっ子っぽく、「はい。頑張りまーす!」なんて答えてしまいます。困ったときやつらいときの他人の言葉は、たとえすでに知っていたことだったとしても、ホントありがたいですからねえ^{*3}。

Linux関係の質問はどう対処すればよいの?

今回のメインのテーマは、「困ったとき、つらいときの他人の言葉は、ホントありがたいですよ」というエピソードに、少し関連しています。Linuxについて、特に技術や操作で知りたいことがあったとき、あなたはどのようにしていますか?

*1 日本語全文検索システム。 <http://openlab.ring.gr.jp/namazu/>参照

*2 論文「伽藍とパズル」の作者。5月末に日本に滞在された。新作論文「魔法のおなべ(The Magic Cauldron)」の日本語訳(山形浩生さん訳)が、 <http://www.post1.com/home/hiyori13/freeware/magicpot.html>で公開されている。

*3 ただ、コンピュータ関係者と会話している場合は要注意。「あ〜、なるほど。それは便利ですね。」なんて気軽に答えてしまい、「こんなことも知らなかったんですか。」と切り替えされ、「よしだともこは、こんなことも知らなかった……」とIRC(Internet Relay Chat)で報告されたことがあります。知っていることを教えられた場合には「それは知ってます」と答えるのが正しくて、「あ〜、なるほど。それは便利ですね。」という返答は、知らなかった証以外の何者でもないと言われればそれまでなんですが……。

たとえば、Linuxをインストールしたけど、X Window Systemが起動しないとか、あるいは、もっと小さい疑問、Linux上のMuleを使い始めたけど、特殊記号の入力方法がわからない場合の対処方法です。

(1) 家族に聞いて、手取り足取り教えてもらう

……そんな家族を持つあなたは、非常にラッキーです。LLUGで、そんな夫を持つ奥様に対して、「旦那さんを分けて〜」との声が流れたことも……。

(2) 学校や会社などの詳しい人に、教えてもらう

……あなたはかなりラッキーです。でも調子にのって頼りすぎないように気をつけましょう。>自分

(3) 知り合いに聞く

……それはラッキーです。知り合いさんには、この夏、感謝を込めたお中元でもいかがですか。

さて、ここまでにあてはまる人は、たぶん、少ないはず。Linuxについて聞ける人は、そうゴロゴロしているわけではないですから(最近、私はちょっとExcelに挑戦していて、いろいろ疑問を持ったのですが、世の中には、Excelについて聞ける人は多いですねえ。そしてみんなに口を揃えて言われてしまいました。「そんなの常識ですよ。ほんとうに知らなかったの?」と……)。

とにかく、上記の(1)~(3)にはあてはまらない大多数の人の行動は、以下のいずれかになるでしょう。

(4) 本屋で行って、それがわかるような本や雑誌を探す

(5) ネットワーク上の情報を探す

(6) メーリングリストで聞いてみる

本屋にLinux関係の本や雑誌が多く並ぶようになったのはここ1年のことで、非常に画期的なこと。大いに利用しましょう。特に、私の書いた本や雑誌たちを……(笑)。ただ、どれを手にとればどういうことが書いてあるかは、タイトルだけでは判断しにくいことも多いし、テーマによっては、本や雑誌から答えを探すのに時間がかかるのが難点です。古い雑誌の記事は、手にはらないこともありますし……。

となると、(5)と(6)が、今なお主流でしょうか。それ以外に、

(7) 地域のLinuxユーザー会やイベントに出かけて行く

……というのも、かなりメジャーになりつつある方法で、本誌にも、「Linux User Group Map」というページができています。

また、仕事で使っているのなら、

(8) サポート業者に連絡して対処してもらう

……という解もあります。サポート業者の層が厚くなって、この方法が主流になることを、心から応援しています。

さて、この(1)~(8)の中から(5)と(6)について、以下に詳しく紹介しましょう。

 ネットワーク上の情報を探す基本は、過去に交換されメールからのキーワード検索

さて、Linux関係の情報をネットワーク上から探す方法としては、<http://www.goo.ne.jp/>のような、一般的なポータルサイトに的確なキーワードを入れて、大海の中からLinux関連の情報を探し出す方法もありますが、それではなかなか目的の情報に行き着かないことも多いでしょう。

そんな時にお勧めなのが、Linux専門のWebページとして多くの情報を集めている「日本のLinux情報」(<http://www.linux.or.jp/>)です。その中でも、特に、この中の情報をキーワード検索できるページ(<http://www.linux.or.jp/search.html>)を、まず利用してみましょう。

このページからは、fj.os.linuxというLinux関係のニュースグループのNetNewsを検索するサイトへのリンクも提供されていますし、Linux Users MLというLinux関係のメーリングリストに投稿されたメールからのキーワード検索が提供されているページへのリンクもあります。

JFと呼ばれる日本語のドキュメントをキーワード検索できるページや、JM(Japanese Man page)プロジェクトや、xjman(X Japanese Documentation Project)のページで公開されている文書を全文検索できるページへのリンク、さらには、ftpサイトから検索を提供できるページへのリンクも提供されています。

このような各種の情報ページの中でも、「過去メールが検索利用できるページ」の利用は、Linux情報の検索の基本中の基本となっています。上記のページからもリンクされている“The full-text retrieval of Linux-Users-ML (in Japanese) log archive”には、1997年2月から現在(1999年6月末)までに、Linux Users MLで交換された、54,900通のメールが集められて、キーワード検索できるようになっていました。

「わかんないから、メーリングリストで聞こうかな」と

思った時には、一瞬、踏みとどまって、まずはこちらを利用してくださいね。

このようなページは、「別のユーザが同じ質問にぶつかったときに、メーリングリストのログを検索することで回答を得ることができるため、同じ話題を何度も何度も目にすることを減らすことができ、結果としてメーリングリスト全体の利益につながる」ことを願って、わざわざ手間をかけて作られているのです。でないと、「同じ話題を何度も何度も目にさせられ」、さらには、「同じ答えを、何度も何度も答えさせられる」人の数が、減るところか、Linuxユーザーの数にあわせて増える計算になってしまいます。それって悲惨……。

Linux関係の技術や設定の質問は、「同じようなことを、過去に聞いた人がいるに違いない」と思って間違いないように思います。ただ、メーリングリストに投稿されるメールの中には、「いったい何が聞きたいの？ 何が言いたいの？ その質問の仕方では、答える方も困るよ」というものも、少なくありません。

さらに、「解決後には、それをみんなに報告して、共通の知識にする」という暗黙の約束も、忘れられがちです。このあたりについては、8月に発行される、インターネット関係の本に「メッセージの適切な伝達(メーリングリストの場合)」という節をたてて詳しく書きましたので、興味のある方は、どうぞご覧になってください⁴。あー、なんか無意識のうちにいつも宣伝活動をしてしまいますね、私。

✕ **メーリングリストでの質問も最終的には……**

過去のメールを検索しても解決策が得られない場合、「仕方ない、メーリングリストで聞いてみよう!」となるわけです。たとえば最近、LLUG(Ladies' Linux Users Group) MLに、

「Linux上のMuleを使い始めたけど、特殊記号の入力方法がわからない。ギリシャ文字の α や μ は、どうすれば画面に出てくるの?」

という質問メールが流れました。

「質問者の環境によって、返事は違うんだけどな……」
と思いつつ、Wnn担当の私は、

「Mule+たまご(Egg)環境なら、コントロールを押しながら「 \sim 」を押すと、「記号入力」というメニューが画面の一番下に出てきて、その中に、「ギリシア文字」というサブメニューがあるので、そこから選ぶ。また、Wnn6を、MuleやXwnmoやkinput2などから使っているなら、「@あるふぁ」と入れて変換させると「 α 」が出てくるし、「@みゅー」と入れて変換させると「 μ 」が出てくる。」と答えました。ほぼ同時に、Cannaを使っている方やSKKを使っている方から、

「Cannaなら、「あるふぁ」と入れて変換すれば「 α 」が出る。「みゅー」と入れて変換させると「 μ 」が出てくる。」
「SKK(じゃないんだろうケド)なら、「/alpha」で「 α 」、「/mu」で「 μ 」が出ます。」
という返答がありました。

さて、LLUG MLに流れたメールも、一応、ログが検索できるページが存在しますので(<http://www.tomo.gr.jp/tomoko/llug/>)、上記の質問および回答も、最終的には、「ネットワーク上で得られる情報」に加えられるというわけです。

あなたの"Private Teachers"とは

……
✕ 「あなたの"Private Teachers"を紹介します……」というタイトルで書かれた記事が、「過去のメールのログを探せば、答えは見つかりますよ」で終るといって、「なーんだ、"Private Teachers"って、過去のメールのログってことなのか……」とガッカリした人もいるかもしれません。でも、この"Private Teachers"って、ほんと、素敵な人々なんですよー。

たとえば、

<http://wais.kusastro.kyoto-u.ac.jp/ml/linux-users/maillist.html>

のページには、スレッド順、日付順以外に、著者順という目次もあって、これを見ていると、みんなの質問を親切に答えてくださっている素敵な人々(の文章)に出会えます。「このページの著者順の目次をチェックしてる……」なんて書くと、ちょっとストーカーっぽいかしらね。

では、また

*4 有賀妙子、吉田智子著の「学校で教わっていない人のためのインターネット講座～ネットワークリテラシーを身につける～」(北大路書房刊)。 <http://www.tomo.gr.jp/Internet/>参照。この本の中で紹介した「メーリングリストに投稿された、よくない質問メールの例」は、1998年の秋ごろ、LinuxUsersメーリングリストに「お馬鹿な私」なるSubjectで投稿された、非常に的を得ない質問メールとそれに対するやりとりを編集したものだ。